



地域の維持・活性化に向けた新たな取組を下支え

土佐天空の郷保全会（高知県本山町）

- 本山町は、高知県北部の四国山脈の中央部に位置する中山間地域であり、昔ながらの棚田が経営基盤。
- 農業者が減少する中、中山間地域等直接支払交付金を活用しつつ、農地の保全に取り組んできた。
- 令和2年度3月に「土佐天空の郷保全会」を設立。本山町全域を1組織として多面的機能支払交付金を活用。それによって中山間地域等直接支払交付金をさらに有効活用できるようになった。
- 農村RM0モデル形成支援事業を活用し、地域農業の維持・活性化に向けて新たな取組に挑戦。地域の多様な関係者で議論し、畦畔の防草対策、デジタル技術を活用した用水路管理などの実証を行う。
- 実証結果を各団体に継承し、取組のさらなる進化を図っている。

【地区概要】

- ・ 取組面積：195ha
(田 182ha、畑 13ha)
- ・ 資源量：水路 57.3km、農道 43.5km、
ため池 1箇所
- ・ 主な構成員：18集落
- ・ 交付金 約14百万円 (R6)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

地域の状況や課題

- 集落ごとに中山間地域等直接支払交付金を活用し課題に取り組んでいたが、町ぐるみで対応することでより多くの町民の参加や大規模な修繕の対応が可能となるのではないかとこの視点から、本山町全域を1組織として多面的機能支払交付金を活用。
- しかし、人口減少が顕著であり、集落の戸数減少が進んでいる。早めに手を打たなければ農地維持の体力が限界を迎えてしまうという危機感をもっている。
- また、高齢者の単身世帯や認知症の高齢者が増加しており、安心して生活できる環境づくりが必要。
- 町の将来に向けて新たな取組が求められている。

農村RM0の設立

- 令和4年6月に農村RM0「本山町農村みらい会議」を設立し、町ぐるみで新たな取組に挑戦。
- 農業関係者だけでなく、地域運営も行う集落活動センターも参画。
- 多面的機能支払活動組織は、新たな取組を支える役割を担う。

農村RM0の取組

- 町内全域に声掛けをして、本山町の理想像についてのワークショップを開催。将来ビジョンが作成され、緊急性・重要性の高い内容について実証を行う。

主な実証内容

- 畦畔の防草対策の研究並びに実証
- デジタル技術を活用した用水路管理の実証
- 農業機械のレンタル制度確立
- 堆肥を活用した地域循環型農業の研究
- 直売所・棚田を活用した関係人口構築

- 農村RM0モデル形成支援事業によって、将来に向けた取組の道筋が作られた。
- これに沿って各組織が各種交付金を活用し、取組を具体化。

取組の効果

- 集落単位の課題を町全体の課題として捉える意識が生まれた。
- センチピートグラスの吹き付けにより、農繁期の草刈回数を抑えられる可能性。
- 遠隔の水位監視システムにより、水の見回り時間を削減。
- 新規就農者への農業機械のレンタル制度の確立に向け、貸出期間や台数、貸出金額の目安を把握できた。
- 小さな田んぼで活用しにくかった牛糞堆肥をペレット化。



水位監視システム

令和2年度以前

多面的機能支払交付金は1集落のみ取り組む。
ほとんどの集落では、中山間地域直接支払を活用して農地の維持を行っていた。

地域の状況

集落ごとに地域課題の解決に取り組んできたが、以下のような課題が顕在化

- ①集落内のマンパワー不足
- ②農地・農業インフラの維持困難
- ③ブランド農産物の課題
- ④地域経済・流通の衰退
- ⑤景観・地域資源の荒廃

Step1 (R2)

土佐天空の郷保全会を設立

- ・本山町を1組織として多面的機能支払交付金を活用。
- ・中山間地域直接支払をその他の取組に活用することが可能になった。

Step2 (R4)

農村RMO「本山町農村みらい会議」の設立

- ・令和4年6月に「本山町農村みらい会議」を設立。
【構成員】本山町農業公社、集落活動センター2組織、本山町社会福祉協議会、営農組合4組織、農事組合法人、土佐天空の郷保全会、中山間等直接支払事業を活用する集落協定17協定、本山町
- ・町内全域に声掛けをして、本山町の理想像についてのワークショップを開催。

Step3 (R7～)

「本山町農村みらい会議」

- ・中山間地域等直接支払制度を活用

【農地保全】

- ③農業機械の共同利用
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）

【地域資源の活用】

- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑧美しい景観づくり
- ⑨地域農産物を活用した加工品開発

【新規】

- ・農産物の付加価値販売（商談会参加等）
- ・鳥獣害対策（防護柵・電柵設置）

「高知県・本山町」

- ・地方創生の交付金を活用

【農地保全】

- ①防草対策
- ②デジタル技術を活用した用水路管理
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）

- ・農道拡幅整備
- ・水路管理道整備

【地域資源の活用】

- ⑥本山さくら市の維持発展
- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑩農産物の付加価値販売

「本山町」

- ・花のまちづくり基金を活用

【地域資源の活用】

- ⑧美しい景観づくり（芝桜の植栽等）

「本山町畜産環境対策協議会」

- ・環境保全型農業直接支払交付金を活用

【農地保全】

- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業

【農地保全】

- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業
- ・Jクレジットの推進

「土佐天空の郷保全会」

- ・多面的機能支払交付金を活用
町内全域の農地保全を行い、新たな取組を下支え。



センチピードグラス

「本山町農村みらい会議」

農村RMO形成モデル支援事業を活用（R4～R6）
将来ビジョンが作られ、緊急性・重要性の高い内容について、以下のような新たな取組を行う。

【農地保全】

- ①防草対策
- ②デジタル技術を活用した用水路管理
- ③農業機械のレンタル
- ④ブランド米の振興（土佐天空の郷）
- ⑤堆肥を活用した地域循環型農業

【地域資源の活用】

- ⑥本山さくら市の維持発展
- ⑦直売所・棚田を活用した関係人口構築
- ⑧美しい景観づくり
- ⑨地域農産物を活用した加工品開発
- ⑩農産物の付加価値販売

【生活支援】

- ⑪野菜集出荷
- ⑫雇用創出（お仕事バンク）

R4～R6に実施した各事業は各団体に継承し、横展開を計画